



## 8 働きがいも経済成長も



### 目標8

### 働きがいも経済成長も

目標内容は、包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。

#### 世界の現状

目標⑧「働きがいも経済成長も」は、生活の根幹である就労について誰もが生き生きと働き、能力を伸ばして、生計を立てていけるようになるための目標です。世界には、1日当たり3.2ドル未満の生活から抜け出せない「ワーキングプア(働く貧困層)」が約7億人、失業者が約2億人いるとされています。働けないという問題は貧困につながります。貧困は次の世代である子どもたちにも影響し、学校へ行けない、安定した仕事に就けないといった「負の連鎖」に繋がる可能性があります。

7億人



仕事はあるが貧困から抜け出せない人数

2億人



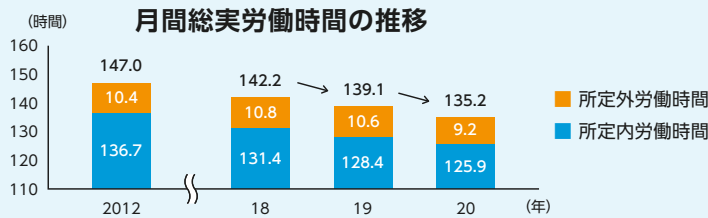
失業者



(参考: 国際労働機関(ILO)年次報告書2019および2021)  
(参考: 国連広報センター持続可能な開発目標(SDGs)報告2022)

#### 日本における労働環境

目標⑧は、日本の労働にも影響します。日本は長時間労働の国という情報をよく耳にしますが、労働時間については、法制度の改正を背景に、2019年、2020年と比較的大きく減少し、週労働時間60時間以上の雇用者の割合も男性を中心に減少傾向です。また、年次有給休暇の取得率は、2019年に全ての企業規模で大きく上昇し改善傾向が見られています。一方で、賃金を上昇させることやパワハラ・セクハラといった問題を解決し、労働の中身を充実させ、働きがいを担保していくことも今後の課題です。



(参考: 厚生労働省令和3年版労働経済の分析)

#### 沖縄における労働環境 沖縄県は非正規雇用の割合が高い!

沖縄県では正規職員が60%で非正規職員が40%となっています。また、全国水準と比べると、労働生産性や賃金水準も低い値を示しています。これらのことが、貧困を生み出している一因にもなっており、県民一人一人の生活に直結する問題です。今後は、県全体で高い付加価値を生み出し、一人一人が生き生きと豊かに暮らしていける産業のあり方を実現する必要があります。



(参考: 労働力調査(沖縄県) 令和3年3月沖縄県企画部統計課)

#### 私たちにできる事!

- 一人一人が自分のキャリアや人生を真剣に考えて、スキルアップの気持ちを持つ。
- 長時間労働をなくすため、仕事での無駄をみんなで話し合ってみよう。
- ジェンダーに基づく働き方の偏見に慎重になろう。たとえば、「男性なら残業や休日出勤するのは当たり前」や「女性は事務作業などの簡単な仕事を任せる」といった偏見は、それぞれの人が自分らしく働くのを妨げている可能性があります。



お問い合わせ: 恩納村SDGs推進事務局(企画課内) ☎966-1201 ✉sunna.sdgs@gmail.com



恩納村のSDGs  
取組情報